

D 中濃地域交流会

日本のだ真ん中「中濃地域」！
和紙と刃物 伝統工芸の里で食と農を語ろう



中濃地域は、岐阜県のほぼ中央に位置し、県及び日本の人口重心で、いわば日本のだ真ん中です。伝統漁法「鵜飼」が繰り返られる清流長良川が縦断し、その恵みを受けながら、古くから和紙と刃物文化が息づき、それと相まって地域農業が発展してきました。

上流部の中山間地域では、ゆず、キウイフルーツなどの特産物が生産されており、中・下流部の平坦地域では土地利用型農業を中心にトマト、いちご、さといもなどの園芸品目、畜産などの多彩で活気ある農業が展開されています。

また、直売所を核として、ブルーベリーや米粉、ツルムラサキなどの6次産業化に取り組んでいます。



小瀬鵜飼



円空さといも

11月10日(木)／情報交換会

- 全体会** (会場:岐阜メモリアルセンター) 15:30終了
情報交換会 (会場:みの観光ホテル) 18:00~20:00
宿舎 (関観光ホテル、美濃緑風荘)

11月11日(金)／現地研修会(全2コース)

コース

D-1

清流長良川が育む刀匠の里の元気な若手農業者コース

トマトやブルーベリーの若手生産者、地域活性化の拠点施設である大規模農産物直売所、関市の刃物文化を伝える「関鍛冶伝承館」を紹介します。

- 宿舎 → ① JAめぐみのファーマーズマーケットとれったひろば関店 (8:30) → ② 関鍛冶伝承館 (徒歩) 岐阜県刃物会館 (8:45~9:25) (9:40~10:35) → ③ (株)多治見屋 (11:10~11:40) → ④ (有)ふる里農園 美の関【昼食:地元食材弁当】 (11:50~12:50) → ⑤ ぎふフラワーフェスティバル (13:30~15:00) 会場:花フェスタ記念公園 (16:00) → JR岐阜駅

① JAめぐみのファーマーズマーケットとれったひろば関店(関市)



新鮮な地元野菜、果物を始め、ブルーベリー加工品、ゆず加工品、米粉商品等の農産加工品が多数揃う農産物直売所です。

② 関鍛冶伝承館・岐阜県刃物会館(関市)



伝統ある古式日本刀鍛錬を実演します。土産店では関の刃物を販売しています。

③ (株)多治見屋(関市)



岐阜県が開発したトマト独立ポット耕栽培システムを県内でいち早く導入した農業法人です。

④ (有)ふる里農園 美の関(関市)



直売所、加工施設を併設した観光農園で、農業大学卒業生が多く就職し活躍しています。

⑤ ぎふフラワーフェスティバル(可児市)



世界最大級の規模を誇るバラ園がある花フェスタ記念公園で、岐阜の花を紹介します。

コース
D-2

無形文化遺産「本美濃紙」の里をめぐる地産地消コース

県内生乳の約半分を取扱う県内酪農・乳業の拠点施設、地域活性化の拠点施設である大規模農産物直売所、世界文化遺産「本美濃紙」の魅力を紹介します。

宿舎 → ① 曾代用水 川湊灯台付近 → ② 美濃和紙の里会館 → ③ 美濃酪農農業協同組合連合会 本所工場 →
 (8:30) (8:35~8:45) (9:10~9:40) (10:05~10:35)
 ④ JAめぐみのファーマーズマーケットとれったひろば関店 → ⑤ 郷土料理つるや【昼食:つるむらさきうどん】 → ⑥ ぎふフラワーフェスティバル → JR岐阜駅
 (10:55~11:35) (12:00~12:45) (13:30~15:00)会場:花フェスタ記念公園 (16:00)

そだい かわみなとどうだい
① 曾代用水 川湊灯台付近 (美濃市)



「世界かんがい施設遺産」に登録された、江戸時代初期に作られた歴史ある水路です。

④ JAめぐみのファーマーズマーケットとれったひろば関店(関市)



新鮮な地元野菜、果物を始め、ブルーベリー加工品、ゆず加工品、米粉商品等の農産加工品が多数揃う農産物直売所です。

② 美濃和紙の里会館 (美濃市)



「ユネスコ無形文化遺産」に登録された本美濃紙をはじめ美濃和紙の技術を紹介します。

⑤ 郷土料理 つるや (関市)



古民家を改装した農家レストランで名物つるむらさきうどんを提供します。

③ 美濃酪農農業協同組合連合会 本所工場 (美濃市)



県内で生産される生乳の約半分を取扱う県内酪農・乳業の拠点施設です。

⑥ ぎふフラワーフェスティバル (可児市)



世界最大級の規模を誇るバラ園がある花フェスタ記念公園で、岐阜の花を紹介します。

ユネスコ
無形文化遺産

岐阜県が世界に誇る歴史と文化 ②

本美濃紙 日本の手漉和紙技術

本美濃紙は、白くて美しく、柔らかさと強さを併せ持ち、求められる要素を極めた紙と言えます。昔から変わらない色合い、風合いが多くの人を魅了し、現在でも京都迎賓館の障子や照明器具などに使用されています。

「和紙 日本の手漉和紙技術」として、石州半紙、細川紙とともに無形文化遺産に登録されました。

2014年登録

